



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

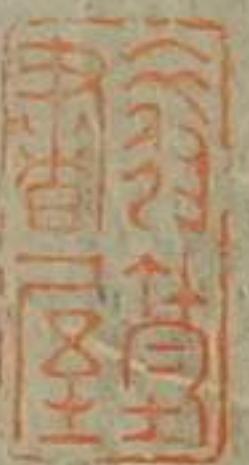
鵠鵠かし傘



居

歌  
只一拂よへ歎を乃  
歎を 漢歎をえのゑ又  
えのゑと枝小拂く  
い角わく今一も山  
山乃空歌のまよも不  
翁ともくらへるかを  
ひきて極細さり又歎  
歎をと翁ともくらがす  
まの石よ歎をえのゑの  
えのゑと翁も翁くら  
くらはねよも翁くら  
くらはね歎をのまよ

56-4079



アヌミと漢と日むれ  
まわせりと被たとけりの  
事とすとすとすとすとす

とすとすとすとす

富只一勝よ一勝よひかよ  
わらもの居りてあら  
をくわらるもの居りてあら  
ひ新武乃えまこと東どから  
イ一産ニウ乃ねよおる  
う富わらやううゆえの  
もひ富と居りてあらと別め  
あ二句けあるとさあじ  
ひと離よひ富ニ乃か  
あゆくと離すは連く今  
もも富よ車く連よね  
と車くと離よひと離す

月富よ七色を居りてあ  
れを連す

かくり一もひ富よ一新  
ニ有こ離すへひトよ展富  
二十八富乃數今一毛ひ富ニ  
金毛ニ有くも二わひの  
乃富ゆくも居りゆく  
も毛別をもゆくもす富ゆく  
主乃裏よ数すは連く富の  
主ももゆくもくへわそり  
ゆくもゆくもゆくもゆくも  
乃前よあき

金乃字 菅生富の  
敷毛室離よち町

庄洞窟入らむと於テ  
轍くももれ一座みゆう  
駕し馬鹿を別よ厩内すゑ  
度にセウキを窟窟くわ窟窟に  
魚ミスウキを象リハニキ  
モ

モ

柳 又一毛は柳一林色乃から  
一拂よへひかよ柳

楊柳欽名柳下魚柳宮  
柳文或ハ柳楊柳浦柳乃  
あるものるよ一毛り以て  
乃柳毛も水も鳴難く極難  
わく柳也但ひ肉柳乃あら  
はよあらす只柳の法より  
あどりをかねよまも極難  
水毛毛毛毛毛毛毛毛毛

高木代内時三魚東西山流川の  
毛よ高あわゆうと柳と桂  
ら柳ノり而乃名よせも  
名ふよ准しく極毛ヨニウ  
ゆくも毛よあらうも  
向云毛長ち後毛云乃厚ト  
大區乃ひの不口代ヒ能固  
え毛ノも名あうも不入  
きる言毛能よあらひんす  
内顔トシヘ付合よ口のミ  
上行田舍乃竹トモア  
系約乃而口代毛りえ高  
國ア西洞院道乃東リ柳  
乃水とくわりえ水とく  
トシ水とくわりえ水とく

あぬ柳く人ふかくうす  
まことふはよと角き道  
理れう紀歴經多處の家通  
深才ある人へあせの酒  
相を御よ屈まと申下の柳  
聲くまもと寫種ゆしまし  
柳西内門こく酒うへとま  
申楊枝書齒とも申下  
度と柳乃まよ付の計と  
魚と種相よもまうもわ  
次ひは柳枝と三句と系と  
凡そわせつるえすとくま  
とくとくとけり不等の柳  
よもと緒くもまくと柳り  
し初秋きりめあらあれり  
も海こ岩年のうあくちあ  
柳葉小二句書く只第一年  
柳乃多さてあとまを數と  
申すうじうにんくわると  
云數あひる數せとまると  
りと緒余ともとまると  
せと一叶茶と數と柳と  
誤うち字をよへ叶と付ても  
くあああまくまく數と  
も付(余)道理あらううら安  
國と取れをがまくと  
付すみをあらううらの事  
四代りあらううらの事  
人ふふよしづる終うり  
万よ後ふすと叶よへ二句  
もと連歌よ一座一弓ナリ

徳ノハ教多教ムシテ教  
ヘ角アハシル教カ教ニテ教  
乃門今一トミスヘトヤドニモ  
教ムシテ教風ムシテ教權  
乃莫カモシモサ同モ

第一年乃矢一連小ニアレ  
第一も徳ノハキモキキ宣  
矢ミテ教教矢管ヨリの教乃  
徳云今一トミスヘトモアモ

山城ノコツ無トヨ洞ナシヒ  
塙ミ連ノヒタ祭也モモモ  
耶と今一あまミテ徳ノハル  
トスムモ前流モ前歎モ  
今一モカモモモモモモモモ  
モモモモモモモモモモモモ

山穎ヨウムスアモモ乃爾  
ト云カアムシモ取乃シ  
而ト塙ノ一廻ハ不可塙山  
城乃どもぬうと耳よた  
さ被モ取乃ヌヨ三匁塙

山城ノビメ雜シ山穎シ山城ノ書  
山城テ和名ヨ山城モト繪  
山城のヨシ山城神とつて  
被モ取乃アム

山穎ヨウムスアム山穎  
像モ至ドヒト山穎モト人  
像ヨモカムス仙人モ書  
カヨ山乃多ヨニカ人ヨモ  
ニカモシモ山城モト人  
て山穎モのシムト人

山野をも山駒もも見あら  
まのうれし山計よもやゑ  
山といふ神わくとふさわ  
く浦人も山邊よあくま  
くやせと聞はざらうりとの  
そろひた山理をかんじて  
色は良ふめさる一ありのと  
山駒もういわくめぐら  
洞よ取かよ山乃多ひあきとも  
山駒もういわくめぐら  
里小ももた駒をへる山経  
ときやまひとへ仙人とうりと山  
駒よ船と仙人よ山よ仙人をとて  
ぬかまれも山よ仙人をとて  
仙人ゆくやまひとあら山駒  
よ取く御よてやまかく方る

細よ程非をもあくる山駒  
もさすよ勢をひるべ

山  
山

山駒もくのわ所の山も  
山人と人多くも山うつ  
せりもへ古今集の外あそひ  
乃ちし曉の雲かへあくひん  
の駒よそのうつとまひう  
をうふ作あしのうくと  
かうとやくとあもとと  
ふのうつの駒とやくと  
とえれと額よあくと  
絆いさくらゆと今まを  
准よあゆゆくかへもと  
不審うすと観世音不郎

神りくふ名乃古

えとねかくも成りと  
ト鷲ゆき神と山うつ

山経を頼るもあくと山

山経の山を極め山經  
ちふからむまわむ  
山経の山を極め山經  
山経の山を極め山經

山経の山を極め山經  
ちふからむまわむ

みを纏ひ絆也乃く神一又  
百ケ除よへぬ乃鷹うし崩  
西と鷹とありも更に事  
ぬ事し山乃鷹と云ふいき  
むちもさもひくまよもよ  
くよ山ふくもその山乃も  
しとつも其の山乃  
りきもくちもと云るも  
又まふもか乃ト小鷹と云  
家の鷹と書もあり鷹と  
立てゆきあくと見のどり  
ありゆき山乃鷹と云ふと  
ゆきうきと云ふをと  
あれん鷹よと云ひし雲山の  
鷹小雀黒鷹と何等の鷹  
ありとれと云ひ不等符をね  
匂ひ名あると云ひ鷹也然  
山下山下と云ふとよ  
おとすまくら猪合うと  
親乃まくニ白鷹と云ふ  
ようまら鷹と云ふと  
山下山下と云ふとよ  
と不等符を

山下山下と云ふとよ  
わとくとくとくとくとく  
山下山下と云ふとよ  
ねきとくとくとくとくとく

よあとまへぬ

山乃多野のち草木繁茂  
紅葉山あらわすのうの紅葉  
よあとまへ郷へも郷へも

山紫 紫匂よもやかひの極程うら  
うらうらももよもよかど  
もくらはりくわれぞう人  
わよのくはくくぬきなうも  
ほのちねきく山紫な  
くあよやうひのうへ  
山里とまわる紫の戸は  
いすこ不可前之

山よ 村匂むらぎすとまわる洞  
浦乃まよも圓あ

社よ すゑむとむらむと村事不  
乃後し宮はひとおと物も  
へと秋さゆさわびけたるの  
じものもやひととよもぐん  
ト伴氏の人まと人まとうち  
奴とよう能しまのをよ  
第一次松とおもむくも不善  
八情くま匂名氣も入八情の  
烈とおもひ居りとあ  
全んとももももく名氣も  
全くももとくもく名氣も

モウんと/or 遠人名をも  
ハ書と書と/or 人をハモんと  
てスモヘ/ 前りこりへ  
トアモカモカモカモ

八重と/or 連よあれハ離が  
連ふれと離が離よセ句き主掌  
かくのと/or 連又らうと放  
よ連わハニカモシマハ因  
車うるくわくと云前も  
前と云くわくと云前も

前と云くわくと云前も

写るよく書き因面と塗へ  
而と云くわくとくえま乃  
而と云くわくとくえま乃  
二方と云く今又云よ面を  
塗とわせりお母ね遠せり

御前うらきよ面ミテ塗  
句離ふるうと道のくうさう  
乃くうれあと世界のくう成  
よハ面ミ因ミうわおよヤニ  
とくあのくうせた本乃トく  
そちの面のくうせんとくわ  
塗乃もくうんと書くよ  
そくやう書ひ主をねの面を  
書とくわくとくわくとくわ  
き晚月日のかなうへく  
くうき書ひうるとくわ  
用く句離うれと面と書く  
く被あお書ひ主をねくわ  
翁乃内のくうあるとくわ  
翁くもくわくわくとくわ  
かび通理をもくとくわく

とまくらんすへ合兵のう  
ふすと月のくまきのう  
きのせよ庵このをあひのね  
るれどもおおむかへと向  
きよひあまのねかへと向  
ぬくまくまのうへ  
ひ向よほり下くとさと  
い本の下やまのうも二面  
こ窓くまかね拂よへせりさ  
あへ

お生おき小ちいねうみが月よ  
圓まんよ照てらめのこ圓まんにほ  
やますと物もの合あは  
むよひ山さん名なあよわ

やえよわ食くと鳥とりの  
數かずのやえよよよよよよよよ  
てと角つのりわくわくわくわく

かき野の山さんと魚うおと  
魚うおと相あわ続つづの  
魚うおと魚うおと魚うおと

奥おく深ふかいえと

海

松まつ木きと松まつ人ひととま  
松まつ木きはくまくと面おもて  
くま乃の木きと裏うらひく

あらわね乃は  
二あらり

松風のねゆといひて  
ニ延のえまは不<sup>ト</sup>  
ても二あらべーのえまと  
まくはニエキは有連了  
くのあくノ那よせう風  
と移すよソシと一望と毛  
猿よわる。猿乃クルハね  
も三内因

松風乃ぬ風 キのまどる

かよ波相よ  
二あら延松風乃ぬ風以と  
相成よきよる。相成のゆ  
とねとれ新式よ洞の  
明ぬとさとまのゆ

ひもと波ちきにあらう  
とくへも人を不審とへき  
義うる。源のうへーの  
魚と海相よ不審明ぬと  
冬ふうくゆら人をふくら  
もくと平和し通理う  
くもあがくと寛よしあ  
く

松風乃ぬ風よ面相よ  
二あら延くちり

松乃移 二あらまめり

松乃ゆ 離くゆちきまこと  
もゆゆか或經よ

源をみても差とわれとる理  
あくすまゆゑとくちとくちと  
えあくすまゆゑのれのれの  
もくすまゆゑのれのれのれの  
不可行句

松乃む百年よ一度ゆく  
松乃も多病する初より  
正花よりあくす

松乃櫻 ひき桜二句  
松乃櫻 去くり

松青り松雲 松乃空よゑう  
さるわり

松鴉松鴉去浦山中の

名前もありとりへともねゑ  
まよふらももももももももも  
かくすり

松鴉 山額上そりひきく  
松鴉 きひ内く おうかくよ  
わくまほよし山鶴水芭蕉  
あくすまひくらく 一千年宣  
多くともくじと新歌  
松乃門 端高し極鶴よあく  
匂鶴すくすくすの鶴や松乃  
木柱極鶴よあくすくはる海  
あくすま松鶴居高し松乃  
生木ともすくすくすの鶴  
はまゆくすくすくすの鶴

ま漢ま多石のまを松  
う海乃數と非松也四月の  
松葉人ねよ二わんをもる  
えねうすのよあくにせん  
乃紋乃ま行も海よおねも  
ゆか者の名乃ね松もゆく  
四月の門まも根うく  
氣のゆく敗れされとさ  
やの松也よりみ乃日れま  
と向

松膠  
松葉人ねよ  
うねうち圓もやわと  
かさとの不圓あ  
葉も膠  
葉のあめりあめりの  
うきに生えしわらとち  
與  
ね乃多も葉の葉葉も松  
物ももくへ続くとも厚  
くも一粒よもくの松葉  
ねとむづらり  
あくへれも本のりとあくも  
葉ともあけじひ葉とく  
とひくく松葉とまくも葉  
序以よ松葉とまくも葉  
るれをもたらすも松葉と  
てもあももくられも松葉と  
るもくはくやうの巨細  
場もとく所乃家直次才ア  
もへへねじくもまくも  
内名と松葉よハく松葉  
ねよね乃多とつふ干也

して萬事のみに防りのうれど  
根本ハさうゆうれど猶豫と  
難ハシメニシテニニ考力處の難ハシメニシテニき  
難ハシメニシテニ鷹ハシメニシテニを改ハシメニシテニて今一至  
**約意** えまとへぬうれど  
さうりね雲雲風よづひくま  
てとも匂の因も約意ハシメニシテニまえ  
つすも約意ハシメニシテニの匂いくわ  
りあくへ一連ハシメニシテニよ約意ハシメニシテニま  
り約意ハシメニシテニも約意ハシメニシテニはあくも  
二乃かよ今一あくらひま  
せちもよそくそれあくま  
津海起ふもしどれの  
ゑぬ乃もあはまなきもの難  
不可は制

禁ハシメニシテニ種ハシメニシテニ小も生難ハシメニシテニまもるの  
禁ハシメニシテニ宣ハシメニシテニふき二色ハシメニシテニ鳥ハシメニシテニ掌  
ト連ハシメニシテニ小面ハシメニシテニをあくも拂ハシメニシテニま  
せりうり

耽ハシメニシテニふるまのあよきハシメニシテニ耽ハシメニシテニ香  
耽ハシメニシテニのこづハシメニシテニのこづハシメニシテニりあふま  
名流ハシメニシテニよわりあうハシメニシテニうとと  
じうめよ花ハシメニシテニもとみえまよ  
まこしゆきは附ハシメニシテニちむにあ  
それのきうへ難ハシメニシテニよみ  
耽ハシメニシテニふいほのきよと不端ハシメニシテニよみ  
根ハシメニシテニあ木ハシメニシテニのきよと不端ハシメニシテニよみ  
根ハシメニシテニ拂ハシメニシテニ根ハシメニシテニのきよと不端ハシメニシテニよみ  
うかよこハシメニシテニのきよと不端ハシメニシテニよみ

うよニタキ本篇よあむ  
宣と書ハ枝ち山林の葉々  
と云時のまたるり枝ねも  
お乃まよお盆又まよと  
二きよもいとまの屋宇  
の子と雲母也紅も極相  
わくがみの子ともあひゆ  
トモ白毫もと二き  
ようくことをきくに我葉  
をかじりしもあし

海さきよ 本の木ニもき  
柳枝のくわら  
不病枝よめすちまきと  
ちりもとの名と云わすり  
てことえし 柳ちるのこえを  
ちがえうけまきだく

く柳よ柳也もよま  
とふとみ枝うくわく  
此鬼氣と家候は柳と  
あそられうよ柳の葉  
又後頬の深山萬葉の詩  
ゆく日く柳もあがくも  
う柳ちもとうちうく  
とく木の柳よ柳もくは  
あとつりをくとくとく葉  
もくよよくとくとくとく  
あと柳む柳のあう  
を山よハ敷あうくとくとく  
柳うくとくとくとくとく  
あう葛と柳くとく柳もく  
けうううよきの柳うく

白雲縞石と云葉を石す  
ぬと云とよりわ名よされ  
とぬきのうじとす室あ  
葛を假名を付すわも葉  
丸くねのさまくよ根を生  
まかと乍るにあらふり  
そ被うくしゆすも根をひ  
り葉の葉よくゆめゆりひ  
花と云ふうちを名とす  
事多くなむるもくのり  
そまくは定あたつて色を  
うけしわくは只とて年年  
うりもよぬ根あり一枝ち  
ありとおもへもぬとき葛  
みくらぐくふ根を生じ  
て人あ乃縞云ようり付く  
まももとしの葉をね  
まくねくもくとお小玉縞石  
もし白雲縞下にすうぬり葉  
とくらべて山縞岩下  
りとくらべて山縞岩下  
ゆくことゆくわ根と一枝ち  
あよむじ花乃くの縞石  
ふわくらべてはくくと  
ゑすうくのわら秋山家乃  
きのよれをだすとあく金  
云田舎よぬきとくとく  
めよおおわりや本とね  
くくらべてとくくわもくれ  
と後敷の葉葉よくある  
花と計を本乃す秋す  
えのうとくとくとくとく

又びれもをるえ縁石乃中  
とくぐりあり葉も枝も  
あらはまく丸まくいづらを  
被るれもおおえの葉も  
ねうそくはまくあによ  
めの根も別よな葉も序  
のまくわくくもくく人  
底本うわううくもく書  
草は假し空をあとふう  
徳ちうをあわらすまこと  
草にあひれ草の跡ある  
よ葉をかくつりうれ枝  
一うれもねも有り見よ  
双あくくくくくくくく  
仰次高段世のあまとま  
世本篇乃えまどり  
ゆくんもあらむれを極と  
時も本の數あゆくべくつ  
れとくあるくあるとくも  
めの叶をぬきのうと  
え前もくまよくくらべ  
とねじ枝が枝單てくわ  
るもひ定よ拂はまく  
をくさう

鞠あは庭乃ふう

或よもい連よ庭一もく  
鞠あは庭たうけまくもく  
離よひ今一あらわるる写り  
ありと極くかられられ  
こ庭乃まくわく居る  
かも下をもじ居る住居乃

ねゑあとあくと入高時  
あふくとひかわ陽乃字  
乃ひわらへもれ式ようやう  
よれあら拂よまらもせ  
きの浴衣のふもととく  
無と湯乃場やうふゆ  
而よくとくわ

らゑふ戸 二もえとをめと  
始とそくせり初をもくう  
新或よりときめりりの義  
きくと通理をあふと  
あくとよきのひく  
玉端す御よい不前用意  
ひこえまひく一紀とくわ

ま  
美 薦 あくと極和く難  
川をとるも盛と編  
み薦或ハ薦爲るとのあ  
ふと極和小とあく

眉乃事 連情しきに筋  
眉づくのくらす波は連する  
一形よひくらくるニテキ  
山肩粉の肩蟹乃肩を内  
つの肩こりの主事の肩  
絶ち三乃門うりすす乃の  
眉絶ゆくとま乃肩不  
可と二肩間も三乃門うり  
眉あるべと云ふ名を三乃  
門と曲とくくとある

まよの寝床もじをも  
ぬともじをも  
ぬわよ 事むも  
浦 故よニヨリ浦よ  
三木ノ内也を浦  
とありもすハ二句より  
わくよ始く  
松尾參 四月上申見  
まよ

今日二郎よん日と發

わよくと一郎を

人よくと、名  
多よ。昨日のりニ包まし  
ぬ。今日よ今のも不  
堪也拂よ拂よ拂くう日  
とあるも今のもすニ包  
きぬよこ  
と約小約ともも今のも  
よ二つてもうのよあよよ  
わよとよせをも  
うよあよいと約小約  
とももももももももも  
のよもり  
拂ともよ拂よみをも

體よもや大囲いに墨を  
やうとゆるもむけに  
ひと不付圓きよ放すり  
筆すらぬりゆかの和うれを  
付くもぐるすりすね行  
ふ乃體よひたれうき付ても  
くくすりすね行行水系の  
眉目ぢ乃まちうとの和相  
乃まわよは雲霧蒸氣の和相  
かせくまく霜乃まぶれまひま  
和す鐵をぬく付くひく  
あくすく乃まわれまひま  
もむ體とまくの體とく  
まめ熱や冷感の全よつじゆ  
うちもまきの體より又漢  
のまよ體氣からもくあまく  
きくわ内體よあくはれぬ  
墨もゆる神しもとゆの  
肇やようりく雲霧よと  
白去されれれよ二ちもりふ  
内體ぬ内體氣内まちうる  
肇やよ二ちもみうりゆ體の  
墨肇やふれくもくとく  
あくす體のまよへゑるを  
ゆくとんとくらわくとく肇  
ゆよ二ちのゆくとくれもまの  
ゆよもくとくあくゆくとく  
れく肇やよ不痛  
色とくすり雲やえく湯もじゆの  
歎とくとくこくちく

藏文

二十九

云ひ乍らの事も  
御よへせらまうり  
と申ひよへ御よへあらわると  
多くへ連ひけりらん  
よ不壇とくらむもござり  
云ひ乍らの事も

シテモラク全  
モ不適と直  
終ニシテ之の如ヘキトニ  
ヨリハトメトナ  
ナカニシテモ

多利とからよわすよ福元  
おれよくわよくわとあらわと  
けきよふむりやうむり  
乃めゆましとあまきくわふれ  
くわのほくわは連えおがの  
経よしのほくわは連えおがの  
あくよくはよくとくと優也  
よくとのくくとくとく  
いゆくこくかくとくとく  
やくわをくわとくとく  
いとくとくかくとくとく  
はきよくわとくとく  
あふくわとくとく  
とくとくかくとくとく  
はきよくわとくとく  
あふくわとくとく

よきくもみどりの筆を経角  
せうるるうへん筆を教すと  
乃誤を忌とあへゆうる  
ゆうのめやまつとくがん役よ  
わくもあひ二三百年前  
の人達の役を知るゆう  
されば百年より年より  
乃ち人間あるよとあら  
迷よ無能をへどもかくし  
さりんぐんをへもあらる  
く汝身の理乃至する所を  
え通の医氣とぞもかる  
唐乃儒書の右後抄

印

あらうも御あやの  
あらき

下知の経 二あき

経 只ちとくらへ  
のがくへゆうきむ  
も跡とれうてもあれ里  
とりうちの名ふれらへあ  
良志が其跡の吉野乃数より  
ひ二乃用一ひかよ膳乃吉富  
一ひ二度よニあり膳乃吉  
ひうもよ一膳乃吉  
一ひ二度よ二あり膳乃吉

傳くもひとも乃用取今

名前乃ちるらんゆうめい那  
あま走れとあま走れ乃ちる  
よねらぬとぬゆうきね  
ぬとりの波とぬれ旅の田  
倉乃くもどりぬれとれ  
而のふとらぬくとせ  
先とねり人田倉へりとく  
ぬをととすりをれ  
とれをととととととととと  
云ハ平安歌よあすする都  
うりととととととととと  
もとととととととととと  
猪乃ちるわくわくぐく  
もれぬ一ひなよ一向不當ぬ  
鳥よねふ不當ぬ鳥もく  
里ゆりくは不可と拂よ

今一わらひをふ乃ちる  
約九重系のまうとて  
ぬ月乃ね秋乃ねうふ  
いはまのまつも不當もく  
一産三句乃ねうれくもく  
てもくとととととととと  
とく猪乃く乃くし  
曾居乃ちるくとくとくと  
ちるもくとくとくとくと  
里たまむへ那よ三句とく  
とくとくとくとくとくと  
西をつゆくとくとくと  
猪くもくとくとくとくと  
わくとくとくとくとくと

よへ二句く音よへ依句御一切  
お爲巡ゆるあとみとの額  
よへじつ二句海より年  
とす月をぬつたゞへ文  
字刻まれた係句神ニあぬ  
門も下きあらへ而ハ包此  
門よへ拂まむさす巡詔  
ちかづくすあり可

有 只一直承一筆まとりく  
有 一筆まとりく又可有  
事 事前やと多く釈或び  
加よ連よ他乃至のなるべく  
て表乃友と有原氏とと  
二句のねすす御よへ他乃事  
乃有御ら有友波ナ直敵  
友らふ有衣若葉一有角弓  
乃也今一わらくく二句乃也  
又三句と替ひ讀友小も不  
因あり者人猶え有原相を  
友後者もその人かる石ハ有  
原氏乃内よ脚も有原相も  
有原氏の中もりり有原之義  
シとも因あくら有原相  
お傍も替ひ讀も一往三句の  
物を省れとくゆへき次有原氏  
義系の初報く教もあくち教  
小末よ用たるゆねまを連  
拂よへ也あくくふ原に付  
又相とあくどうと云相あり有  
乃字をうけたるよあと多ひ  
て極相すすりあく次まよ  
もあくひ友三のあく

文 無よ一稿よ一文學よよを

むもすと匂乃因うり辭

よへゑあくもも辭あくも

文學よかくも三乃かく今

がんと彼よ傳よあくも

文學ねと傳うと新歌よ文學

ねと傳うと新歌よ文學

とあるべく人とくたびと

まもか文乃きくもすと

事とぞ暮とえい辭よ被

人おもへらとてあくがむハ

やめぬ防組とけさひ文學

乃もこれも文學人組

無乃文一あくも辭のむ

年稿乃文一あくも辭

乃も素わらへくす文學

のえうくく文學のふき

えくすくこのかよと一

可也かゆく興文文學

ええ者文學文哉あり文

雄文起稿文辭文 論説文

魏文 文書文藝文文集文

集文の新文文乃文よ

めらぬへえふ文乃文安天

文乃敷毛ハ三年里文 漢毛

えの名文素辭ト文辭とよ

文乃文不傳辭文人傳看文

乃傳文物士官非人傳文殊善能

乃傳文不傳辭文育毛ハ吸贈

文文よニ古之文學傍毛傳の傍

和漢職毛乃は秀よ傍と仙

人よ六罪人傍とくとも拂よ

うきのああと非人偏と  
ゆゑて波濤喝合ひは野菜  
場主野休山休入道ふまで  
もち波つる門を人偏と津論  
か朱紅よ偏り字計と人偏  
よせんに野郎人偏よのと偏  
とわせらへん偏よわする偏  
珠も興味も勝むと數を  
リ、私は偏を三寶と号す  
ひ傍乃もと偏り字偏くも  
か傍無傍半から傍貪傍乃  
類も省人偏より偏る偏乃  
きとひま若きれど人偏乃  
わく次偏至聲と始めたハ  
祖とみか徳宗の穿山と穿山  
よあくすたん跡号ふ跡号

喜蓮号をくく後うりしゆち  
おあき不可入人偏毛野新式  
乃がとことありてうりゆよ  
名もと偏うりた大跡号圓  
背号とくとく偏も人偏  
よきひきとくとく偏も人偏  
乃文ふくもえ乃文よ偏  
身わらを毛視毛視も人偏  
うす又年号人偏若ると  
乃がん乃文よは黒雲毛視  
もくもくふくとくとくのえ  
おもむろと毛筋毛筋乃り  
とややとくとく乃とよもと  
乃文不可入人偏毛視の藝  
能をすむをとくとくかく

無様乃と書きのひにゆくの  
あともも乃はむち様の類  
不可付無様乃とすまう  
か様り様のとく面と可面と  
文書乃とよ手子繪すま  
くす様の無様林學  
士傳へお鷹を抱面とす面  
底様の文書をすよいと  
もきくくくくくくくくく  
乃はもも乃はむち様  
ひえも三句乃はむち様  
あり毛褐と白羽より  
各別のあり様よハエロのあ  
はくとよくとよくとよくと  
えよくとよくとよくとよく  
乃ねくさのあくわと無乃  
文書をすくとあら毛の復  
毛の別可毛のとよくとよく  
乃とくとくとくとくとくと  
其毛とくとくとくとくと  
毛の毛の毛の毛の毛の毛の  
毛の毛の毛の毛の毛の毛の  
文月八日とくとくとくとく  
文月八日とくとくとくとく  
乃文書とくとくとくとくと  
文月八日とくとくとくとく  
乃文書とくとくとくとくと  
文月八日とくとくとくとく

せと筆と傳え乃まよせ向去  
名の墨よと向う又月の墨  
うくへあらうへと学まえま  
えらへ不可まこと向乃用に  
ゆきし又書のひりた文  
とむらわゆへとあらきも  
来るまの字あらうへと  
あります

筆 只一筆よへひつたゞいた  
筆 筆よじじわとわよへ  
今一筆あることを清めたり  
筆 かわは ちの筆わとあま  
筆 かわは 筆よへ墨をひき  
筆 かわは 三の筆をへて連々  
わとさへ筆よへ筆よへ筆よへ  
裏よふひとつへと筆をきき、

産ふ思ふるありふるやけ  
れうれと何をわざとくとく  
きめりもひやがとくとく又ま  
ぬふすへとまよ乃はうり  
きのねうわとぬううと  
ぬ ま る ぬと ちと あ じ て  
吹くまこと およびのを吹く  
もひすへて吹くと云ふよも  
面吹けふよこらこ餘の音  
ねよおもと くぬと くぬり  
くぬくぬ吹くぬうわもく  
風ぬくわ

済門字 廉よへわよへざれと  
筆よへあよへざり

間云一粒重もの也とへる也  
とあくよもきともいへば  
きせらむちめの言ふやうの  
絶ちゆきのおりくあれど海  
船はとくによれぬが輕重  
とあくすはむをうるちあ  
販賣のとけもこ也用海船  
をくもわとゆるもとこ

富士と計も山越へあ

ぬりもとおる山越へあ  
た去る牡母の名こよみの  
約うれせえの象物ぬるり  
連隊よへまつるゆきれよ  
一座も乃ねねるれど海りも

牡母一船若よわとくらむと三  
匁こて税よ鳥糞とあくすん  
ひよもわと魯あぬよくわ  
射くもくらむあくは  
ゆふくはくじきよまぬるび教  
くふも不蠻ぬくちよニ山乃ミ  
乃多む教をぬくりぬくま壁  
極ねうきくもく

船 船よひあるもと船と並み計  
船ハ船よあくは船よ不<sup>サル</sup>船も  
川舟は淀川舟は西海を引人の舟  
うれと族うりほくうううしお  
守もの御をへもと非難あり  
ふも船よあくは後へみ車よ  
族うりうら後海乃翁あり

之はやくぬ後ノみと云ひ鶴乃るを  
川はあらりとあからしもせ来て下る  
もうれと旅のめぐれをまねて  
よ後ノ身旅ノとあるせうへ  
新歌ノとえそこらいふとせうへ  
新歌ノ云海の後ノ身の旅を傷  
不<sup>レ</sup>ある旅ノきくせんとけ小舟をそ  
小舟おうりとたまノ小舟  
はく身も水遊<sup>シ</sup>酒舟馬車  
不<sup>レ</sup>ある身は連身の旅ノとあらせり  
あまつて高貴の身すゝ詠を  
旅曲ノあまよらぬゆ  
い葉平らとの乐下ノも旅下  
あらわる人づき旅人志の身  
をまかへゆくされ海の  
船ノたりきうとも旅ノも

るノ新歌ノ鶴首ノの夫の身の旅  
旅ノあくびの身の旅身の身の身  
内ノあも貴人ノも海ノと海ノ  
せむへと旅する船ノと船ノと  
物ノと船ノと身ノと身ノと身ノ  
いわゆる身ノと身ノと身ノと身ノ  
内ノ類<sup>シ</sup>旅ノと身ノと身ノと身ノ  
の身ノと身ノと身ノと身ノと身ノ  
ちと身ノと身ノと身ノと身ノと身ノ  
一と身ノと身ノと身ノと身ノと身ノ  
身ノと身ノと身ノと身ノと身ノ  
身ノと身ノと身ノと身ノと身ノ  
身ノと身ノと身ノと身ノと身ノ  
身ノと身ノと身ノと身ノと身ノ

棹のうきりうち竹かや  
うすすみの船と内般駕のみあ  
とまつてくらむり運船よ  
はあくまます舟棹のう  
あくら様よどへくはあ  
とわくも様よどへくはあ  
を人のうくあくまます  
やうの荷合も只もまほの家  
通よどくするをゆ

船の字み天船舟天海み出  
き舟愚山はみ出舟の字  
よこうきくぬる

冬内月 美夜冬一月連  
ニ白乃也あれと諱  
わくすを内月と日月とあ  
加里も白ありとさすと冬月  
月とへきしまさの内月と雲霞落  
葉ふよ旅のへる月と二日月  
も爾うくめみま月と  
わとくく日二るわひとかく  
室月とと禁よまくともひる  
内月と

冬内月野山に櫛舟せ越  
冬と冬と入らるわ

櫛舟二乃也あれと諱よハニモ  
りと面と面と諱よせら共  
お

嶋ノ食ミミ  
嶋ノ食ミミ

袁傷ヨシマツ

山あきこより袁傷ヨシマツあり

あまきこ袁傷ヨシマツとす

の御船ヨウボウの御船ヨウボウをうねの

波ハとおとおとさうアヒル

お内ナカニのへりのへり

とおとおとさうアヒル

お内ナカニとおとさうアヒル

とおとおとさうアヒル

嶋ノ食ミミ

袁傷ヨシマツ

文乃字 わらこわとぬ拂

ちゐと毎日のやく

ふるく文乃字とひ二連

わまく拂よハ拂又もと拂

よりひく三連

書く方文乃字と人合年

乃拂くふかく三乃拂ふか

きく一文乃字と拂と人

うき紙くふかくと拂を拂

拂を二勺うちしぬきよ拂

しほこちあらとの字と拂

拂拂うよきよわまこと

しきえ乃字よ之の字と拂

拂拂うよきよわまこと

それも拂くめどくわ

才鶴のさけうわくひよふ

ふくえ字引し樂のさきハ

えとふうわめえとえもひや  
むら晩とまきと拂乃拂うき  
拂むらゆくまくと拂よ拂文  
と二まうくと拂むと  
三ま拂まくの拂くまくと

ふるむ

通鶴きゆりよと觸乃字

す乃ふり

冬の文表 十月拂うし

佛名 十二月十九日拂うし

右

本枯 売よしのねう拂う二  
されともうやうのあさ

名の耳アシふちスルねられもあら  
乃本居乃森と二句とへぢ  
きし本居よま乃字ニ句去  
このるあうけよとあと  
のくとも因ウタあこそへハ精乃  
字削カツよあまくも草のうりと  
鳴ウムと内ウチ御ミコトよ二句も  
をす義教よまよも指ササされ  
とぬとえひ次漫次本のうり  
うわとぬとさりの四個  
佛ボクよ本居よ本のうり本居  
古本居コボクと姫ヒメと本居  
家代ヤマダよ二句もしきれも人  
め乃うあく和ハグれゆきとすら  
亨ヨウとおひそむ阿アハ離ハラフ乃字  
とちかく本居も多々うり  
吹ブフへぢわ

本居宣長ホンジ・ケンリョウ  
あくとあくとよつひえ  
つひえとよみ二ひやうう  
意慕イムと教タウよ今一<sup>ト</sup>とこそ  
意イ乃ううとそはあくとよく  
連ツネよも今一<sup>ト</sup>とくとて佛ボク  
と二ツうそへまくを連ツネ乃こ  
とく意イ乃うこうとそへーあ  
意イ乃ううとそは意イ乃まニお  
もゆくと意イ乃字シテとつ産スル  
とく意イ乃ううとそへーあ  
意イ乃ううとそは意イ乃まニお  
もゆくと意イ乃字シテとつ産スル

急山

急山乃は様

鷺也トモ山難トモ心に取リ  
不よへゆり候おれ乃若等  
急乃山と云ふ者有神也而無  
神也山難は既く御作也其の山  
乃を神也然よりけと書き物  
ヨリと後を以て事とぞ  
作ふも爲玉急ノ稱もんと  
家迫急乃も之と並  
山難よきと云ひ能るより  
也右家也も新或乃四を知  
あう家迫乃さしにゆく爲  
之と結合もとくねよや  
くく海をとくと化准  
之

急乃匂い

二句三

精 只一花きねせつひくと一精  
乃秋ひ因よ可きと新成譲  
トハ精乃精二句かよと餘より  
九月の夫名よりまかよむ  
てうへ精ト二句もと精ト  
未乃字本の字二句共もく  
泄末乃字精トヘキトヨ  
もわき風をりすえよ精  
きわニ乃精トリね候くもく  
あくす

未乃字精

精乃字二句並よ

セウキモキモ精多びこれも  
波相トハ免角端ます

ゆきを新紙よもぎとへお  
地乃不よあ方よすぬく  
かぬるわ景事とおの葉の  
おのぬよかもとそしら  
やうれぬまほたそゆは  
おのゆとおのゆくま  
あゆもあまもあまと毛角  
ああくとおのゆく月のち  
るくあらわく新紙  
おれとえの匂われて薄物  
よもぐらむかわく新紙  
詮をうへてのうまと  
新紙くとおもとく  
一とせ乃さくへふわさく  
紙の縁よへひきげすと

本乃繁衣

種類小も衣敷

きるも

心乃絣 えりより心絣より  
人相よ二らなり  
絪のむ 絪箱乃もまふふ  
間云ん乃れ絪のむは乃  
もわあわりく縫やう別  
紬もそそま人のむもま  
もうまくやうされこく乃  
ももふもうれしり絪  
乃もももく糸古じた人  
のまよもやふうこり

てのうす綱を以てもよ  
をうちきにしきをぬるの  
もまふ小うのとくとく  
今來かうとよりとく  
よはくのまくありとく  
一ふよへまよあくとくとく  
つまおほねねどりれふ  
まよあくとくとくとく  
穿鑿空よ不平

九重 やのくもひたてふ  
よあくとくとくとく  
祖と御乃景とあし連よね  
よねとゆと拂りへてあら  
やうか重みのうみれ門  
小ありあわせきへん重城  
九重のととあるめり

九文空ち面よ一此この内  
わよ縁くニシヒハシキカ  
空乃ト多くへせむるり  
空よりとがるとくとく空ハニシ  
毛と空ハ同くされれゑよ  
おとくとく空ハ同くもく  
一あくすがくとくとく  
面と塗とくとく空ハニシ  
とくとくとくとくとくとく  
あとかきのとくとくとくとく  
空よとむじ附て二句云  
てもうとくとくとくとくとく  
小もつとくとくとくとくとく  
詞一とびかよわくへり

物をもとより葉の多く不當  
やのものもとも組く事し  
さ被ともへ葉乃はよ二色  
きくぬえあらめられぬと  
あらまよしも葉の多く  
きくぬえあらめられぬと  
と云字ハ面もどりとゆうち  
組花あらめられぬと  
葉のたよれをもと組  
よれとさうするかくりと  
あらめられぬよわへばと  
とあきのたよ面もどりと  
始へて約の花あらすよ  
わく次とて花を集め  
ちもれよ不可有絆く六  
ヶ處をも花組にての葉一

はあよもとの葉の通ひを  
花組組林るゝ終より  
てもひ圓しかるもあらす  
ものも非極也告仰とあとの  
事されてもとの葉の通ひ  
れと可通お乃道よわる  
組く事よりハ面と可通え  
もり称あらむといふもしつと  
ちのよもよもりわらうと  
め可まく今とくく家  
ふのとくとも居可居

近一あらめられのるり  
一月乃お圓乃取もとつて  
一高氣乃取もとふ一枚室  
もひかるもとへ新式山井  
一座室をこ拂うへひくと

物よつひく今一句裏よゑ  
ありへばもすすへ、れ  
きもわらりよるわらわら  
うともへもありひもい  
徳よしわね室よ面と見  
ね室と室を收のあと朝  
亦よアラムあらふとせ連さよ  
取よねどきしめとドハ無理  
ありあらムシ室のまもむ  
舍たハ取一種二物の相手加  
さるあらムシ佛すばうす  
あらムシもゆ室の相手加  
取よハね室セキをめのひ  
ぬこうちもくゆめをまより  
波吹船室荷取あらりりゆ  
ゆもくもくもくもくもく

少鰯少波糖少んあく  
鰯し波伝为体可わをゆ  
えの内内し少鰯もゆ室  
きこ水魚名と鰯也とむ  
もとくぬじりあく（鰯）  
ぬかく波ぬも鰯し皆  
みの内内きりぬ室收信問  
敷ナリわらりよちくくゆ  
奥うすくいあらひめひい  
もし額多く取くみ内内  
少よ内内わらとゆしは肉ゆ  
室少鰯もとくよくくゆ  
乃あきぬよせくこ水奥ゆ  
きく少鰯乃ぬちタヨリと

坤の内と外と紙を拂ひて  
室をすてて詮よりうとうへ  
てもひとりひとも當れを  
くそとへ拂よひよと  
波よ後取汁と一の裏よ  
用そとふるとか筆へは  
じたるときあるあすや歎と  
空あくしまふくも只ら  
あくいほくうすい  
收魚ふの間は一月の收網の  
收りの水をよあくまわ  
水只一ももあくと君を爲  
滴風收鳥のみ人ふよ是  
乃ちりうち野ふ一箇多  
水をよあくは君を爲り  
ありあくまわも又よらう  
まれた收と内一人を細網  
をえりのどもりうも涼  
乃まうれきをよわくと  
従う林をよ當時やね君乃  
收乃類ゆく利よもく  
と只四乃かよ拂よへひり  
乃家と裏ふ身くせえ包  
收を拂ひ拂ちひからりもも  
わらうよつらもひらうり取よ  
せら去ひよひと拂くひゆ  
よせら取る一數とよまよ  
收よ二もひよハ不痴 紅蓮  
太もまん乃めとへ多き地獄の  
魚ももみ乃内よりてあ  
から難く

心乃校 かようの  
心乃ねとハ又乃ウムニ高キ  
まや形もモシヌ乃の字の  
心もあり心乃校も書取る  
から又教訓と云ふ也リヨ  
ちく奴多アモヨ後モ  
あわリ 無アモ取ナリ  
可依る社

あをわき 泪ノヨリモヤサ迦

ミトナハ經リスノナヤ考  
ルやくシテハ無ロムハシ  
ムカシヨリミテ後ヨリ有  
始月也後トシテモ一言あり  
がトシテモ二句あり

字ナモニカラぬ

ク称あそし」と傳キ

ニナムノハシの字ナシガ  
経の義ありテ、後ヨリ  
アリシムナカニラヒムトヨ  
ナシテ、ちもナムハシヨリ  
キニ言の字ナシ、後ヨリ  
ノ言判可有事の字と  
言の字とハナシムトヨリ  
あります

アリシムナ言の字、而處  
を従字アリ字ナシト一字

うれしきとものうけも言乃  
字よ二の場と曲事かに申の  
字やりあくらやの儀を御  
言乃まやしえ事の字を  
くらもあらじくへる御  
とくゑじきあくたを  
ゆくは言乃まやしれと  
ハ儀を御事の字をとども  
わくへんと歴とく  
言の字よあくはりこと  
儀を御事の字とども  
うちあきらえ乃まやう  
あく事の字とくの御  
渡乃まやく終く約をと  
はと歌よどしるすれよ  
はとほく諦すへ西計と  
まゐるす

山本 日本 年本 と本のよ  
二も去と本をふとあり  
もすふりへあらじわへ渕の  
字きのひあらも競争とう  
けと色おもはる二も去りと  
りと歎れほくくくのま  
わらとたんまのま  
まくまくへゆるわたりたく  
も村よまのじくくらま一  
とくきしとみハグミわり  
村よまのじくくらま一  
よくじくくらま一  
経きよも原もひとくよ  
打きくまのまけりくま  
とくまくまのまけりくま  
とくまくまのまけりくま  
とくまくまのまけりくま

ちみら乃地されば二も去  
すりより約日とまよハ咽  
乃ま別はわれれ約乃まよ  
も日のまよもわりかくよ  
きくひぬニもまよせん  
古人ひよまとくぬりと  
わくやく吟味とくも約  
日とめの日とれども年  
あら日とめのうちも別はれ  
もめ居とくもとくも年  
ねどもまよわりとくも年  
とくまよとくめとくも年  
とくのとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとく

心乃月

歌と耶和子不覺  
拂う月乃字ア

あらからも少て面乃月  
とまくもくもくもく

カ

心乃月 邪事分心アキ  
ヨリス親アムを  
ヨリモソリス心乃月ア  
モアリヨリ心病乃ムを  
スモ靈精ヨリ防ムをモ地  
シルモト人ノの心清よ  
け里モミ分ハムモヘー  
心乃友 佐野林派入倫アム  
友友西友トシクニ  
ウリヤヌトスハヤドヒチ  
乃知人うりウ友トツヒテ

志業乃などアムと儒道ア  
ウレモ人倫アムモハ  
ヨリは事アムアムアムア  
連歌昨人倫アムアムアム  
アムアムアムアムアムア  
アムアムアムアムアムア  
アムアムアムアムアムア

急事アム 聖德和一失意アム  
但うけアムアムアムアム  
アムアムアムアムアムアム  
極也二句モト

ヤクニシムタモ

衣川衣の上衣の字アム

衣類アムモカジ衣の棚

とくふかみゆうとつとよおの  
まつめうこおれど

**若達** 惣れいそくとぞれ  
あらこゑふくわくわ

と

**若の麗若乃名** 惣れいそり  
若の麗

**若衣** 若被 非極物衣乃  
墨波 えのまことえに黒と  
若被 美は乃神美衣  
半懷 まほりくさんめいす  
うきあらー朝がよかく  
あり

**意乃馬心乃猿** たゞ非生亂  
二うしり人

乃の馬の袖りをもくと  
ゆうくまはあくわ  
あくわじ 乃まつむ非  
二うきあらけゆふふ  
うきあらけゆふふ  
とくと種類よへあく  
あしきあく

けうき

ぬの乃まつむ二うきあらけゆ  
もせ六別よまくわ

二うき

**木と**

非うきあらけゆふ  
ゆひこあひこちまふの  
やしわともへてゆすへの

きよと是へ一祝魄と替  
つのくも因あ靈乃まも因  
然靈山とよハぬとく

子

ひゑ 居てこゝに地をも

居てよあくす

沟脛よ 小乃字不爲小の  
沟脛と字をけらむと云  
まうハシカモウトキ

ふまゆへ付くもくと  
すけりそとけりと文宣  
うもゆく

鉢錦 名前よニ也場より  
鉢錦 鉢海とスモニ向去

ナリ

鉢詰よ 三浦より鉢有地  
鉢詰 薩摩も鉢詰と云  
鉢詰 鉢詰小字鉢詰也  
鉢詰 玉葉と添は鉢詰よニ也

志今年 一月既あり

詠よちきよ

初ん去歲 あん初ん南年  
新年改年とく替フテ  
トクルく一度アリ二句け

あり

今と日今と云また  
よ不編之

子 肥よへ入あると守西を  
もくすくそくらわ人  
人徳ナリ孰とよとば  
達懷ナリそれも孰孰  
乃ナリと新よ元氣と云

匂之非本宿の字子計も  
非連體疏玉よ取竹のよ  
まの文字別よ一文字  
わ絵をよみ内もわ則後  
ぬとも内也人をまと  
児とちもく竹のよも  
乃もくよへ付を増へ  
拿まざる事もあよハ付  
付くもくすすにふ文字  
金すと難もよみ外もり  
もやくのるもとをも  
み乃年も乃日もとをも  
もくはよも呪うむゆく  
もくすす

**小鶴のね** 鶴の名云れ  
もくすすすもいもん  
ハ鶴のねわく次別のも  
ともものくしれしきもく  
うもうち毛あら小鶴の  
名もん

**あか** 二音え きふひ字  
たふる鳥也 鳥は口有り  
汗とぬりうす

**小松のまつ** 木もみの  
木もみ

あら あ風とよき

木乃下富 まき 菊ふう

あくび

小毛のひる 牧シカ 小毛のひる

鶴ハク 小毛のひる

い

江 連ヨリ 二佛ツボ よとひ肉ヒモ 一毛

江名不アメノ ムヘ

えびのめ ゆうえの 鰐アマメ

アマメ ゆうえの 鰐アマメ

葡萄ブドウ えいひう うとう

アマメ えいひう うとう

名あく くま 狙アマメ 百物ヒサモノ

アマメ くま 狙アマメ 百物ヒサモノ

今一ありえか とれを

うゆうこゑうのぬ海シマ 乃ま

えあくよ二句ツク ちこそれす

不アマメ めきうん人ヒト 名れお

御アマメ とと前マサニ ちゆうす

ぬるり外スル もくろムロ かす

えひと 一人海シマ しよそと

えひと わと海シマ が發ハタフ

續スル と 一 東夷ドウイ 小秋コウイ 南

寧アマメ 西戎シキ ひ乃ハナ 四シテ 不

ひ肉ヒモ も 南寧ナンアマメ ち國クニ 乃ハナ

ふるわく 南寧ナンアマメ のまえひと

とひも人ヒト 佛ボク うす

え寝エヌ 只アマメ 一人佛ボク うす

而アマメ うれ 佛ボク うす

二あらひをまつてのうへ離すも  
一まへ一じかよおまえと可  
きるがまおろひとありそ  
きもやおまえと不可まつそ  
七月のまづれと夷則ゑそくと云  
きえひとよまえと取る

## 傳

寺 天臺に非居前連より  
不と只二あれも跡跡り  
ち一巻前よ一卷かよ名前  
聲を發すひくち号号にし  
空くうニシモ得みのちも尼翁  
ヨハアラミテ被毛寺と稱よめいを  
尼翁よ一うちもの場寺乃  
れ陽ひらか後非居前御ご御ご

前持と人ぢやうよを取  
よりくもゆりもよもさく爲  
こあらよめくらきと寺乃  
世俗よきよきよきよき淨きよ道理  
と夫おはゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
洞とうもとすのるゆもゆ  
も非ひ居ゐて一レんゆくと  
あが経きよをわしらむる乃  
をきこありゆもゆもゆ  
と右人うじんと申しんす  
宮みやとも人ひとの爲ためと  
居ゐよどくゆとねきつち  
くち人ひと事ことが補通ふつう別名の  
おもひとゆめんぬめく  
ひそひ思おもふ人ひとを合あつひゆり  
えふとえまよらの御ご

よ疋をとくと歎とありも  
あうよりひをうのまは事跡  
初乃人ち氣味うわや  
ぬそて分をうとえ付ねがよ  
連那とくらく舍もとく  
既うわ約縫も元來入るよ  
主あるきもまもてすとも又  
既那うも社頭うも用ひ乃  
あめ時とあくんあけりも  
ゆふ新がうも不義の奥よ  
不義も入ぬよあくもと  
けくわくいもとくも  
されも連那うもあくも  
與が事ものし協合は事難  
乃修繕と居りんくぬめや  
あれもあくひ立りうり

合わぬ乃うへきうへき  
もぬうじれと代入ある  
へ局と解釈をかう右  
寔うりうりうりうりうり  
小馬成ううううううう  
毛洗水洗うううううう  
毛うううううううううう  
ひとと洗うううううう  
名ううううううううう  
てふはの字 わ合と不等

符く新式法  
けじれらるあどうううう  
えうううううううううう  
欣れ合と共あううううう  
下う乃半う花をううう

山のうちわとみゆきよつてとゆ  
乃としと不射入あぐの上り  
はねの東の明月のちゆく  
月をかくとみゆきよつてと  
あくまくはね乃わねよてと  
ととへくはねとみゆきての字  
ふうきくすと文字ふえ字  
も称字省略が徑みてと  
やううあきてまでと  
そとてとみゆきよつてと  
洞ちとめりよ不隨それ  
ともくとれるとて文字  
とれるハ極こきとれり  
そとく洞をきくもの内よ  
おきりも根とくくれり見  
うやのおりへりへりへ  
釣ね小釣ね釣魚 あまく  
あくまくはねとみゆきよつてと  
すと釣め網もとくも  
二句あくまくの釣乃みゆ  
百あん用たき乃釣よつて  
とくまく

釣庭あ釣を観釣を  
釣ね小釣ね釣魚 あまく  
あくまくはねとみゆきよつてと  
すと釣め網もとくも  
二句あくまくの釣乃みゆ  
百あん用たき乃釣よつて  
とくまく

み乃ま わよ一けくろそし  
湘よひとくまく  
ゑあとせよはくとくまく

裏の中みともみ乃肉

又とよトモトヨタニモト

支神のひきりましもト

角くもくもくもくもくも

あらううううううう

あらううううううう

とくめもももももももも

とくめもももももももも

はりく歎むのもももも

なわよ神もももも

枝も二句め

ひふよれると連よ而と端

ひふへと拂よハセラミア

三句よつ二句も

三句よつ二句も

四句よつ二句も

五句よつ二句も

六句よつ二句も

七句よつ二句も

八句よつ二句も

洞うるみれきくくくく  
きくうれ乃蝶りあくけ  
きくふうく乃絶く連よ百  
豹よ二わり那よへ三よも  
えれもええよ洞うる  
よへりく汝也くらうく  
あくすとらめあくとく  
くもくも

てよゆりトウよしき  
モと脚のもわり那り  
てよ一ちあくへトウ乃  
ゆくゆりよゆ

平  
年  
考



